



「教育の転換期である今、できること」



今年度になり、「自己選択・自己決定の機会を増やす」「学習の計画を立てることを大切にすること」を意図した授業を参観することが増えました。子どもに、「ゆだねる」「まかせる」ということで、個別に学習を進めていく時間が多くあります。協働する相手やタイミングも、子ども自身の必要感に応じて自由に行っていく姿もあります。

一方で、一斉授業型でも、その子らしい考えを表出し合い、一人一人が学びを生み出していく授業を拝見します。自分とは異なる考えが発表されると、すぐには理解できずに混乱しますが、もやもやする時間にこそ価値があります。

名古屋市教育センター
 指導主事 三田 美乃里

着目しているところの違いに自ら気付くことができれば、新たな見方・考え方を獲得することができるのです。

「ナゴヤ学びのコンパス」の理念を実現させる上で、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が欠かせません。友達と学ぶ中で、単元を貫く見方・考え方や教科ならではの学び方を獲得し、そして、個に戻り、学んだことを発揮する。こうした往還により、自律した学び手に育っていくのです。

個別最適な学びが示され、「知識・技能」の育成に偏った「ドリル的な個別学習」のみを進めていくことは心配なことです。教育の転換期である今、名数研の先生方が、個別最適な学びと協働的な学びが往還する、単元レベルの授業提案をしていただけることを願っています。

第105回 全国算数・数学教育研究(青森)大会に参加して

名古屋市立扇台中学校 清水 宏紀

8月10日(木)に全国算数・数学教育研究大会がzoomで行われました。大会では、単元ごとの指導法に関わる研究だけでなく、GIGAスクール構想に対応した実践や個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図った実践など、多岐にわたって発表がされました。

私は「自立的・協働的に活動する生徒の育成」をテーマに発表しました。助言者の先生からは、「生徒に何故それを思いついたのか、着想を得た過程について問いかけたり、話し合わせたり

する活動を大事にしてほしい」と、今後の研究への気付きを得ることができました。また、数学を苦手としている生徒が素直に「分からない。」と発信できるような学級経営も心掛けていきたいと思えます。

最後に、お忙しい中、発表に至るまで名数研の多くの先生に丁寧なご指導をいただいたことに感謝申し上げます。



第72次 全国算数・教育研究愛知県集會に参加して

名古屋市立吹上小学校 立松 昌尚

10月21日(土)に県集會に参加しました。数学教育(算数)分科会では「主体的な学び」「思考力・判断力・表現力の育成」「対話的な学び」の3本の柱立てで、名古屋・尾張・三河地区から合わせて19本の実践報告が行われました。私は「自ら学びを進める子どもが育つ算数学習」というテーマで発表しました。

會に参加して印象的だったことは、日常生活場面から算数の問題を見い出している実践が多かったことです。子どもたちが生き生きしな

がら問題解決の様子が伝わってきました。愛知教育大学の高井吾郎先生からは「日常生活と算数の世界を行き来することができるように、教師が単元構成や授業展開などを意識することが必要。」「それを繰り返していく中で、子どもが算数を道具として使えるようになっていくことが、これから大切になってくる。」とのことでした。最後に、今回の研修會での発表の機会を与えてくださったことや、名数研の多くの先生方のご指導に、感謝申し上げます。

第109回 数学科中高連絡協議會

第109回数学科中高連絡協議會が、10月18日の水曜日に港区の東港中学校で開催されました。当日は、研究協議に先立ち、東港中学校の齋藤宏紀先生に3年生「関数 $y = ax^2$ 」、伊藤翔陽先生に1年生「変化と対応」の授業を公開していただきました。

研究協議會は、小中高合わせて50名以上の先生方の参加があり、中高関連グループで中心になって研究を進めてきた千種台中学校の清水宣芳先生に「中高間を結ぶ教材とその実態～高校学校入学者学力テストの結果をふまえて～」というテーマで発表していただきました。春の第108回中高連絡研究協議會での発表を受けて、「相似比から面積を求める指導法」、「確率

についての指導法」、「平方根についての指導法」についての研究発表が行われました。

研究協議では、それぞれの指導法について意見交換が行われ、有意義な協議となりました。

會の最後には、指導室の廣瀬義隆先生から、間違いから学ぶことの大切さや、無解答の生徒が授業でどう活躍できるか、生徒一人ひとりの居場所を授業でつくるのが大切であるなどのご助言をいただきました。

今後も中高間での情報交換の機会を大切にして、よりよい数学指導を考えていくことが必要であると考えます。



10月24日の研究部会で発表されたA6①グループの実践を紹介します。

名数研 研究活動 実践紹介(小学校)

めあて 資料の散らばりについて、ドットプロット・度数分布表・ヒストグラムを用いた分類・整理の仕方や代表地の意味を理解し、それを基に事象の特徴を考察したり説明したりすることで、統計的に問題を解決することができるようにする。

＜日常の場面と算数をつなげる工夫(導入)＞

日常に近い場面を設定し、それを算数の問題として解いた後、再び日常に戻して平均以外の考え方で調べようとさせます。

＜資料の調べ方を拡張させる場の工夫(練り上げ)＞

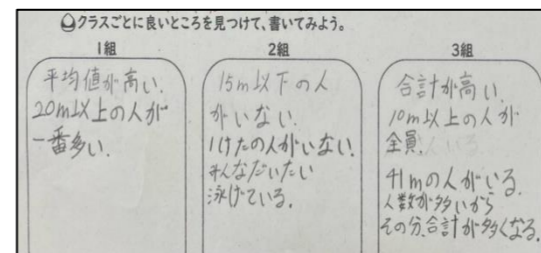
単元を通じた発問をして、資料の調べ方を拡張し、最終時に最初の問題を提示して拡張した考えを活用させます。

百音寺小学校の6年生が水泳大会に向けて記録会を行いました。泳いだ距離をクラスごとにまとめると、次のようになりました。1組、2組、3組の記録を比べてみましょう。

組別	1組	2組	3組
平均値	15.5m	12.5m	18.5m
最高値	25m	20m	28m
最低値	5m	3m	10m

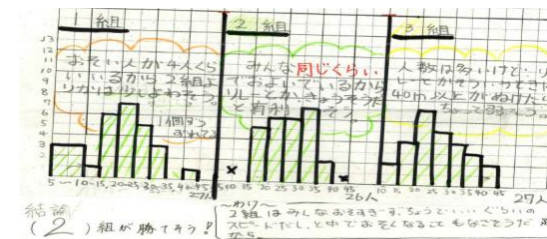
- T: 1番記録の良いクラスはどこですか。
- C: 平均で考えると1組です。
- T: では、平均が高くないクラスによさはなさそうですか。考えてみましょう。

- T: これまで勉強した調べ方で1番勝てそうなクラスを選びましょう。
- C: 最初のときよりいろいろ調べられます。
- C: ぼくはヒストグラムにしようかな。



【自力解決時の児童の記述(例)】

日常から算数、算数から日常の問題として捉えられるように発問をして揺さぶったことで多くの児童が平均以外の資料の調べ方を考えることができました。



【自力解決時の児童の記述(例)】

多くの児童がドットプロットや度数分布表、ヒストグラムなどの学習したことを使って自分なりに資料にまとめ、良さを調べることができました。

名数研研究部計画(3学期)

回	月日	曜	内 容
7	1月26日	金	・発表 小:A6②、B34、B7 中:A2、B2、B1②
8	2月16日	金	・発表 小中合同:C 小:A12、B1 中:A1、B4 ・本年度の反省會

